

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコールの提出が必須です
プロトコールがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	タファシタマブ+R2
診療科名	血液・腫瘍内科
診療科責任者名	末永 孝生
適応がん種	再発又は難治性の濾胞性リンパ腫
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
入院外来区分	<input checked="" type="checkbox"/> 入院 <input type="checkbox"/> 外来

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	NHL-55
登録日・更新日	2026年4月28日
削除日	
出典	Lancet. 2026 Jan 10;407(10524):133-146.
入力者	湯山 聡

投与順に記入(抗がん剤のみ)

1サイクル目

	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名)	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	希釈液					
No.1	タファシタマブ(遺伝子組換え) (ミンジュビ点滴静注用)	200 mg	12mg/kg	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	2.5時間 ※1	day1, 8, 15, 22
	生理食塩液	250mL ※2				
No.2	リツキシマブ (リツキシマブBS点滴静注)	100mg, 500mg	375 mg/m2	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	※3	day1, 8, 15, 22
	生理食塩液	500mL				
No.3	レナリドミド水和物 (レブラミドカプセル)	5mg	20mg/body	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(経口)	1回/日	day1-21

2~3サイクル目

	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名)	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	希釈液					
No.1	タファシタマブ(遺伝子組換え) (ミンジュビ点滴静注用)	200 mg	12mg/kg	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	2時間 ※4	day1, 8, 15, 22
	生理食塩液	250mL ※2				
No.2	リツキシマブ (リツキシマブBS点滴静注)	100mg, 500mg	375 mg/m2	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	※3	day1
	生理食塩液	500mL				
No.3	レナリドミド水和物 (レブラミドカプセル)	5mg	20mg/body	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(経口)	1回/日	day1-21

4~5サイクル目

	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名)	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	希釈液					
No.1	タファシタマブ(遺伝子組換え) (ミンジュビ点滴静注用)	200 mg	12mg/kg	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	2時間 ※4	day1, 15
	生理食塩液	250mL ※2				
No.2	リツキシマブ (リツキシマブBS点滴静注)	100mg, 500mg	375 mg/m2	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	※3	day1
	生理食塩液	500mL				
No.3	レナリドミド水和物 (レブラミドカプセル)	5mg	20mg/body	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(経口)	1回/日	day1-21

6~12サイクル目

	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名)	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	希釈液					
No.1	タファシタマブ(遺伝子組換え) (ミンジュビ点滴静注用)	200 mg	12mg/kg	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	2時間 ※4	day1, 15
	生理食塩液	250mL ※2				
No.2	レナリドミド水和物 (レブラミドカプセル)	5mg	20mg/body	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(経口)	1回/日	day1-21

1コースの期間	28日
投与間隔の短縮規定	<input type="checkbox"/> 短縮可能(日)・ <input checked="" type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコルの提出が必須です
プロトコルがない場合は参考文献を提出してください

減量・中止基準	<p>【開始基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好中球数$\geq 1500/\mu\text{L}$、血小板数$\geq 7.5\text{万}/\mu\text{L}$、$\text{Hb} \geq 8.0\text{g/dL}$ ・$\text{AST} \leq 100\text{U/L}$ (肝病変を有する場合は$\text{AST} < 150\text{U/L}$)、$\text{ALT} \leq 150\text{U/L}$ (肝病変を有する場合は$\text{ALT} < 200\text{U/L}$) ・$\text{T-Bil} \leq 1.5\text{mg/dL}$ (ジルベール症候群又はリンパ腫による肝病変を有する患者の場合、$\text{T-Bil} \leq 5\text{mg/dL}$) ・$\text{CrCL} \geq 30\text{mL/min}$ <p>【減量・中止基準】 <タフシタマブ(遺伝子組換え)></p> <p>・Infusion reaction Grade 2: 投与を中断し、適切な処置を行うこと。Grade 1以下に回復後には、症状が発現した際の1/2以下の投与速度で投与を再開することができる。再開後1時間以内にinfusion reactionが認められない場合には、忍容性に応じて30分ごとに症状が発現した際の投与速度まで投与速度を上げることができる。 Grade 3: 投与を中断し、適切な処置を行うこと。Grade 1以下に回復後には、症状が発現した際の1/4以下の投与速度で投与を再開することができる。再開後1時間以内にinfusion reactionが認められない場合には、忍容性に応じて30分ごとに症状が発現した際の1/2の投与速度まで投与速度を上げることができる。再投与後に再発した場合、投与を中止する。 Grade 4: 投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血小板減少(5万/μL未満): 5万/μL以上に回復するまで休薬する。 ・好中球減少 1,000/μL未満、かつ、7日間未満継続: 1,000/μL以上に回復するまで休薬する。 1,000/μL未満、かつ、7日間以上継続又は体温が38°C以上に上昇した場合、500/μL未満: 1,000/μL以上、かつ、体温38°C未満に回復するまで休薬する。 <p><レナリドミド水和物> 減量する場合の投与量 開始量: 20mg/body 1段階減量: 15mg/body 2段階減量: 10mg/body 3段階減量: 5mg/body</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等度の腎機能障害(CrCL 30 mL/min以上60 mL/min未満): 開始用量を10 mg/bodyに減量する。2サイクル終了後にGrade3/4のレナリドミド関連毒性が認められない場合、15 mg/bodyに増量できる。 ・血小板数$< 5\text{万}/\mu\text{L}$: 休薬する。5万/μL以上に回復した場合には、1段階減量して再開する。 休薬2回目以降、再度血小板数$< 5\text{万}/\mu\text{L}$: 休薬する。5万/μL以上に回復した場合には、前回投与量から1段階ずつ減量して再開する。 ・好中球減少 1,000/μL未満、かつ、7日間未満継続: 休薬する。1,000/μL以上に回復した場合には、同量で再開する。 1,000/μL未満が7日以上持続又は発熱性好中球減少症(好中球数$< 1000/\mu\text{L}$及び体温38.5°C以上)又は好中球数$< 500/\mu\text{L}$: 休薬する。1,000/μL以上に回復した場合には、1段階減量して再開する。 休薬2回目以降、再度好中球数$< 1000/\mu\text{L}$が7日以上持続又は発熱性好中球減少症(好中球数$< 1000/\mu\text{L}$及び体温38.5°C以上)又は好中球数$< 500/\mu\text{L}$: 休薬する。 1,000/μL以上に回復した場合には、前回投与量から1段階ずつ減量して再開する。 ・腫瘍崩壊症候群 検査学的腫瘍崩壊症候群もしくはGrade 1の臨床学的腫瘍崩壊症候群: 同量継続(用量を維持)または1段階減量して継続できる。 Grade 2~4の臨床学的腫瘍崩壊症候群: 休薬する。Grade 0まで回復したら、1段階減量して再開する。 ・腎機能障害(慢性腎臓病) Grade 3(CrCL 29~15 mL/分): 休薬する。Grade 2以下に回復した場合、1段階減量して再開する。 Grade 4(CrCL <15 mL/分): 中止する。
催吐性リスク	軽度
前投薬	<p>【前投薬】アセトアミノフェン650~1000mg+ジフェンヒドラミン50mg+プレドニゾン100mg 1サイクル目は必須とする。2サイクル目以降はinfusion reactionが認められた患者で前投与を考慮すること。</p>
支持療法(その他)	<ul style="list-style-type: none"> ・レナリドミド投与期間中は、深部静脈血栓症予防のアスピリン、抗凝固薬等を投与する。 ・帯状疱疹ウイルスの再活性化予防として、抗ウイルス薬(アシクロビル、ファムシクロビル、バラシクロビル等)を投与する。また、抗真菌薬(レボフロキサシンやST合剤等)を投与してもよい
その他の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ※1 初回投与の最初の30分間は70mL/時とし、その後投与速度を上げて合計2.5時間を目安に投与する。 ただし、投与速度は125mL/時を超えないこと。 ※2 体重42kg以上の患者は250mL、体重42kg未満の患者は100~200mLの生理食塩液で希釈する。 希釈液の本剤最終濃度は2~8mg/mLとする。 ※3 リツキシマブの投与方法は院内標準化に準拠する。 ※4 2回目以降の投与は1.5~2時間を目安に投与する。ただし、投与速度は125mL/時を超えないこと。 <p>・最大12サイクル投与を繰り返すこと。</p> <p>B型肝炎ウイルスキャリアの患者又は既往感染者(HBs抗原陰性、かつHBe抗体又はHBs抗体陽性)において、本剤の投与によりB型肝炎ウイルスの再活性化による肝炎があらわれることがあるので、本剤投与に先立って肝炎ウイルス感染の有無を確認し、本剤投与前に適切な処置を行うこと。本剤の治療開始後及び治療終了後は、継続して肝機能検査や肝炎ウイルスマーカーのモニタリングを行うなど、B型肝炎ウイルスの再活性化の徴候や症状の発現に注意すること。</p>